

広報オススメ本 6月 テーマ「夏至」



「塩の樹と森の人魚」

塚本 はつ歌／著 産業編集センター

「今日は夏至だから仕方ないよ。」
姉と二人で暮らす高校生の大洋は、夏至の日に何か
に呼ばれるように学校のプールへ飛び込む。声をかけた
のは学校に通わず道端の樹のそばに毎朝立つ不思議な
同級生明里だった。
変わりゆく小さな町を舞台にした現代ファンタジーで
す。



「かれん」

安達 千夏／著 角川書店

フリーアナウンサーの雪乃が新たに受けた仕事は、娘
の死を認めようとしない義父のために、身代わりにな
って話し相手をしてほしいという地図会社の社長から
の依頼だった。
ある日地図会社の書斎に入った雪乃は“花蓮”他、数個
の地名が書かれたメモを見つける。



「わくわくほっこり 二十四節気を楽しむ図鑑」

君野 倫子／著 二見書房

古代中国から伝わったという二十四節気。この本は副
題として“可愛くてためになる歳時記入門”とあるとお
り、二十四の節気にあわせた季節の行事や旬の食べ物
が紹介されています。「夏至」のページでは近い時期に
行われる「山開き」や和菓子の「水無月」、旬の食べ物
「枝豆」などが紹介されています。